

# 国内市場戦略 (国内営業カンパニー)



## 次世代へ向けて、日本農業の価値を共創していきます

取締役 常務執行役員  
営業本部長  
縄田 幸夫

### 営業本部長メッセージ

日本農業は、農業の大規模化・スマート化に加え「みどりの食料システム戦略」にみられる環境保全型農業や食料安全保障への取り組み加速など、環境や持続可能性といった概念も織り込まれながら刻々と変化しています。

この状況に対応すべく、国内営業カンパニーは「大規模農家への取り組み強化」や「DX・スマート戦略の強化」、「収支構造改革の加速」の重点施策を軸として、日本農業の価値向上を目指し邁進しています。

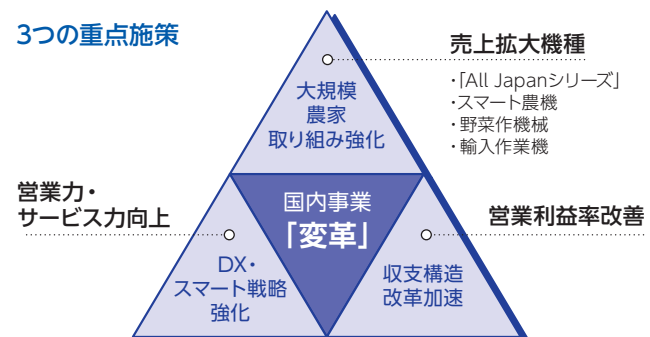
「大規模農家への取り組み強化」では、経営耕地面積拡大を可能とするため、各機種に直進アシスト機能を搭載するなどスマート農業への提案を拡充、また、今年6月新登場のトラクタBFシリーズは、操作しやすい無段変速ミッションを採用し快適性能、スマート・安全機能を拡充し、農作業の生産性向上を目指します。「DX・スマート戦略の強化」で

は、進化する農業技術とICTなどの先端技術に、営農情報ポータルサイト“Amoni”による情報発信を加え、商品販売するのみではなくその後の農業経営を支えるソリューションをサポートします。また「収支構造改革の加速」では筋肉質な企業体質となるための柱としてお客さまへのサービス対応力を強化し、メンテナンス収益の拡大を図るとともに、ブロック戦略(ブロック戦略についてはP38をご覧ください。)を進めています。

以上の取り組みにより、日々変化する日本農業に迅速に対応します。井関グループは“夢ある(=収益力ある)農業”の実現に向け、“お客さまとともに”、“地域社会とともに”、“社員とともに”価値を創造し、持続可能な農業を共創していきます。

### 中期経営計画戦略のポイント

#### 3つの重点施策



### みどりの食料システム戦略

世界的に取り組まれている地球環境問題やSDGsへの対応から、農林水産省にて食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する『みどりの食料システム戦略』が一昨年策定されました。本戦略では各種目標が設定され、今後具体的施策が行われます。

#### 戦略目標 (2050年)

- 化学農薬使用量の50%低減
- 化学肥料使用量の30%低減
- 有機栽培面積を全耕地面積の25%に拡大

有機農業を含む環境保全型農業の拡大を想定

### 市場環境

- 農業従事者は減少も、経営耕地面積を維持していくためにも、効率的な生産に寄与する農業機械の拡充が急務
- 農林水産省「みどりの食料システム戦略」にみられる、環境保全型農業が徐々に拡がりを見せている
- 農業各分野において、スマート化が進行中
- 稲作から野菜・畑作(麦・大豆等)へ作付転換が拡大
- 肥料など資材の高騰が続いている状況

### 中期経営計画の進捗

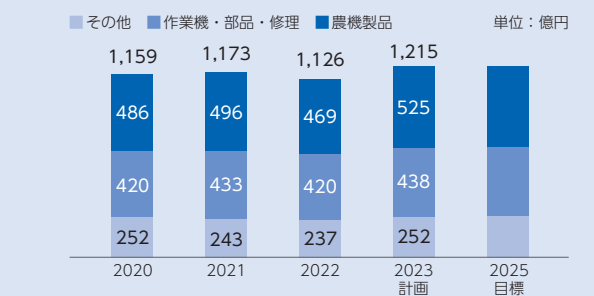
- 大規模農家への取り組み強化  
トラクタ・田植機・コンバインの主要3機種に直進アシスト機能付き機種の販売を開始
- DX・スマート戦略の強化  
営農情報ポータルサイト“Amoni”の内容充実  
営業活動支援ツール“i-Magazine”の展開・運用
- 収支構造改革の加速  
大型整備拠点の拡充

### 今後の展望

- みどりの食料システム法の推進に基づき、環境負荷低減に資するスマート農業・環境保全型有機農業への普及促進が一層図られる見通し
- 食料安全保障強化の観点から、米の栽培から他の作物への作付転換が一層進展する見通し
- 「人・農地プラン」に基づく担い手農家の育成により農地の集積・集約が一層進められる見通し

### 業績グラフ

#### 国内売上高推移



### 注目トピック 環境保全型農業・有機農業への取り組み

「みどりの食料システム戦略」では、有機農業の取り組み面積を全耕地面積の25%に拡大することなどが目標とされており、井関グループにおいても、有機農業を含む環境保全型農業の拡大を見据え取り組みを強化しています。

#### ～井関が取り組む水稲有機栽培技術～

稲作における有機農業の拡大に向けては、水管理・雑草管理が課題となっており、特に雑草管理においては慣行栽培に比べて約5倍の時間がかかると言われています。当社グループは、有機米デザイン(株)が開発した自動抑草ロボット『アイガモロボ』により除草作業の大幅な省力化を実現することで、水稲有機栽培の普及拡大を目指します。アイガモロボは、自動で水田を動き回りながらスク

リューの水流で土を巻き上げ、水を濁らせて日光を遮ることで、水中の雑草が光合成をしにくい環境を作ります。また、巻き上げた土が種子や芽に覆いかぶさることで、雑草の発生・生育を抑えます。ソーラーパネルで自家発電するため、自然エネルギーで稼働します。



自動抑草ロボット「アイガモロボ」

2022年は210カ所・100市町村で実証を実施し、今年も全国各地で展開しています。

このアイガモロボを中心に、当社グループは有機農業拡大に向け取り組んでいきます。

### お客様の声... (株)権右衛門 代表取締役 須田貴志様



秋田県にかほ市の農家(株)権右衛門の須田代表に、アイガモロボを使った感想を伺いました。これまでは無農薬での雑草対策として、紙マルチ田植機や手押しの除草機を使用していた須田様。アイガモロボの抑草効果を実感したという言葉とともに、次のような感想をいただきました。

「田植え前、代かきの状態からアイガモロボを田んぼに放して酸素を与えられる状況を作れるため、初期生育も良く、その後の除草効果も、これまでいろいろ除草で苦労してきた中では、効果があったと実感しています。」



## 国内市場戦略 (国内営業カンパニー)

### 重点施策・1

## 大規模農家への取り組み強化

農政の「人・農地プラン」に基づいた担い手農家の育成・拡大により、国内農業においては今後一人当たりの耕地面積が拡大することが見込まれます。これを踏まえ、井関グループは、「大規模農家への取り組み強化」を重点施策のひとつとし、以下取り組みの実施により推進を強化しています。

#### 直進アシスト機能付き機種種の拡充

大規模化が進む一方、農業従事者の減少が大きな課題となっています。井関グループでは、この課題解決の一助として、非熟練者でも操作しやすい直進アシスト機能「オペレスタ」を搭載した機種種の拡大を図ってきました。2017年の8条クラスの田植機に端を発し、2021年の中型トラクタなど、各機種幅広い馬力帯に直進アシスト機能を搭載し、多様な用途に対応してきました。大型田植機の販売では同機能搭載型が6割となっています。

2022年12月には6条コンバインが加わり、主要3機種であるトラクタ・田植機・コンバインすべてに直進アシスト機能を備えた機種をラインナップしました。今後も、大規模農家のさまざまなニーズに応えていきます。



直進アシスト機能付き6条刈りコンバイン HJ6130-Z

#### 可変施肥への取り組み強化

近年、原油高騰等に起因する肥料価格の高騰が継続しており、特に大規模農家への負担が大きくなっています。

井関グループでは、「農業生産性向上」を目指し茨城県つくばみらい市などの自治体と連携して得られた実証結果を基に、可変施肥田植機と営農情報ポータルサイト“Amoni”を組み合わせ、収量の維持と食味の向上をさせながらも、肥料低減を可能とする営農技術の提案による課題解決を目指しています。

さらに、今年6月に新商品として登場した8条植えマップデータ連動可変施肥田植機は、「ザルビオフィールドマネージャー」\*をはじめとする施肥マップのデータを取り込み、そのデータを基に施肥量を自動で調整することが可能です。“Amoni”を通じた実証に基づくデータ提供に加え、リアルタイム可変施肥田植機とともに、マップデータ対応機種を拡充することにより、大規模農家へのソリューション提案を一層推進していきます。

\*海外大手農業メーカー「BASF社」の栽培管理支援システム



8条植え可変施肥田植機 PRJ-FV型式



空岡ふれあい空港で開催されたトラクタフェスティバルの様子

#### ISEKIアグリJAPANフェスタの開催

近年は、コロナ影響により展示会・実演会開催を思うようにできず、担い手農家の方含め提案活動を行うように行えませんでした。しかし、2023年はウィズコロナの時代に向け、ISEKIアグリJAPANフェスタ(大規模実演会)を広域販売会社6社を中心に実施し、多くのお客さまと接する機会を豊富に設けていきます。

2023年2月中旬には、岡山県にて中セキ中四国主催で「トラクタフェスティバル」を実施し、大変好評を博しました。

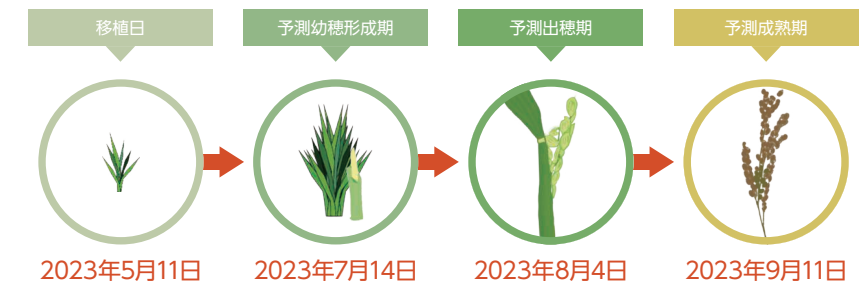
### 重点施策・2

## DX・スマート戦略の強化

営業力・サービス力向上に向けた取り組みの一環として、参画企業・協力農家とともに営農情報ポータルサイト“Amoni”を展開し、農家の皆さまが抱えるさまざまな課題の解決を図っています。当サイトでは、農家の皆さまの情報収集・学び・課題解決の場となるよう、井関グループおよび各参画企業の担当者がプロフェッショナルの視点で農業機械の使用ポイントや営農に役立つ情報の発信、最新の栽培技術にトライした結果などを掲載しています。

また、当サイトは情報掲載だけでなく、生産管理に役立つ便利なツールとして「水稻生育予測」「積算温度予測」「天気・雨雲レーダー」の機能があり、農家の皆さまにとって重要な作物生育に関わる情報をその場でスマホから簡単に検索することができます。

水稻生育予測は、水稻の栽培所・品種・移植日を入力することで、「幼穂形成期」「出穂期」「成熟期」の予測ができる機能となっています。これらの生育ステージは追肥の有無やそのタイミング・量の判断、水管理を行う上で重要です。各生育ステージをあらかじめお知らせすることで、肥料価格高騰下において農家の皆さまがより効率よく施肥を行えるようサポートします。



Amoni「水稻生育予測」(つくばみらい市、コシヒカリ、稚苗の例)

### 重点施策・3

## 収支構造改革の加速

農機市場は米価変動や農業政策などの変化により需要が左右される傾向があります。そこで、農機売上に左右されない収益基盤構築の手段として、作業機売上・そしてメンテナンス収入(部品売上・修理収入)の確保を図っています。近年ではこの施策により、販売会社の収益体質は改善傾向にあり、今後も販売会社各社で維持・拡大を図っていきます。

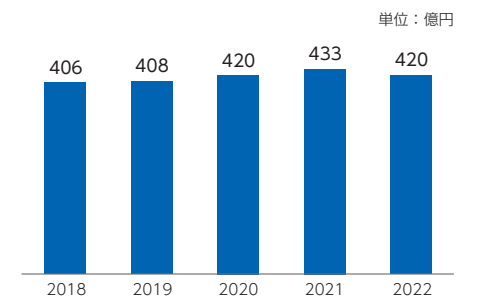
また、収支構造改革のもう1本の柱として、「大型拠点の整備」が挙げられます。当社シェアや近隣の環境等を含め、ブロック単位で投資の効果を検討・検証し、今後も設備投資を進めていきます。

2022年は、大規模拠点として販売会社の中セキ北海道では函館営業所、そして中標津営業所の設備投資を実施しました。

今後も、設備投資による収益・シェアへの効果を勘案しながら、設備投資の実施可否を含めて検討していきます。

これらの取り組みにより、「モノからコト」へのサービスの充実を目指すとともに、売上に左右されない筋肉質な体質への転換を一層図っていきます。

#### 作業機・部品・修理収入推移



中セキ北海道 中標津営業所